

小 論 文

解答例

投能力の低下要因については、以下のことに触れながら解答されていることが望ましい。

- ・ 幼少期の外遊びの機会が減少していること。
- ・ 外遊びの減少には、三つの間(時間、空間、仲間)の減少が影響していること。
- ・ 特に投動作を含む遊びが行われていないこと。例:野球遊び、メンコ、等
- ・ 物を握る動作が減少していること。例:蛇口をひねる、雑巾を絞る、等

保健体育教師としての取り組みについては、投動作を含んだ運動をトレーニングにならないように「楽しみながら」実施することが解答できるとよい。中学校学習指導要領が目標としている「豊かなスポーツライフ」の実現には、楽しさ経験が重要だからである。加えてトレーニングを行えば数値は向上するが、運動嫌いを生むことが懸念される。

以下のような解答が考えられる。

- ・ ベースボール型の球技では、1分間に何回キャッチボールができるかを競うなど、ゲーム性を持たせた補助運動を行う。
- ・ 体づくり運動において、新聞ボールを用いて爆弾ゲームを実施し、投動作の洗練化を図る。
- ・ 陸上競技において、ジャベリックスローなどを実施し、投擲競技の楽しさを味わわせる。
- ・ ゴール型やネット型の球技において、できるだけ多くのボールを準備して、生徒に投動作の経験をさせる。